



# 敬愛

校長 吉田 修

〒183-0027 府中市本町 4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

## 「晴天の運動会」

副校長 齊藤信一郎

5月27日土曜日。今年の運動会は天候に恵まれ、多くの保護者の方が来場され大盛況の中実施されました。

スローガンは「桜梅桃李」です。それぞれが異なる美しい花を咲かせることから「みんな違ってみんないい」「個性が集まっている」という意味が込められているそうです。実行委員が中心で考え、美術部が美しい絵文字の横断幕を作ってくれました。



今回の運動会で感じたことは一生懸命取り組むことのよさです。生徒は競技に、係の仕事に一生懸命取り組んでいました。リレーは走る姿がかっこうよく、見応えがありました。各自が自分なりに達成感が得られたのではないのでしょうか。また、クラスで協力する姿勢を感じました。仲間に声援を送り、声を掛け合っていました。特に大縄では、どのクラスも協力し合ってクラスが一つになって、跳んでいました。練習を重ねた成果が表れていたと思います。そしてみんな自分の役割に一生懸命取り組んでいました。実行委員をはじめ、各係はみんなよく動いていました。三中のよい伝統だと思います。

大切なのは、協力すること、当日までの練習の過程、それぞれ個人が自分なりに一生懸命取り組む姿勢だと思います。それが成長に繋がると思います。一人一人の個性や持ち味が集まって協力し合って、一つの大きな行事をつくり上げました。

御来賓の皆様、保護者の皆様には、多数ご来校いただき感謝申し上げます。PTAの皆様には、暑い中、受付や自転車置き場の誘導等のお仕事で大変お世話になりました。お陰様で素晴らしい運動会となりました。ありがとうございました。





# 1年生



# 2年生



# 3年生





# 「ふれあい自然教室」

副校長 齊藤信一郎

1年生は6月7日（水）、8日（木）の一泊二日で、河口湖方面にふれあい自然教室に行ってきました。心配された天気もち、中央自動車道の大月を過ぎたあたりで、バスの窓から富士山がバーンと見えて、生徒の歓声が上がりました。

「森と緑の楽園」では班ごとに分かれてほうとうをつくりました。野菜を切り、薪を集めて火を起こすところから始めました。始めは苦戦をしている班も見られましたが、コツをつかむと見事に火を起こすことができました。それぞれが役割分担をして、班ごとに完成させて、おいしくほうとうを食べることができました。自分たちで材料切りから火起こしまでして作ったほうとうの味は一味違ったようです。

午後は班で宝探しを楽しく行いました。森の中の道を仲間とあれこれ話しながら、地図を見ながら相談して、試行錯誤しながらオリエンテーリングをすることで班のきずなが強まったようです。

宿舎ではマナーを守って、各自が役割を果たして協力して生活をしていました。二日目は氷穴・風穴をひんやりとした空気を感じながら見学しました。また樹海の森も溶岩のごつごつした道を元気に歩ききりました。富士山レーダードームでは富士山頂測候所について、興味深い展示を熱心に見学していました。

この行事で感じたことは、自然の中で仲間と様々な体験学習を共にすることのよさです。日常と違う環境で、仲間の新たな面を知り仲が深まり、よい思い出になったと思います。雄大な自然を体感して、富士山や地域の自然・伝統・文化について、実感の込められた学習が深められたと思います。



## お知らせ

家庭科育休代替の潮田牧子教諭は5月25日に退職されました。6月12日から常木和美教諭が着任し家庭科の授業と2学年の副担任を担当いたします。

# 私の「心に残ったあの一言」

## 「戦争に行くわけじゃない」「現場に自信を持ち込むな」

主幹教諭 津田 淳

「戦争に行くわけじゃない。」「人生の方が大事ですから。野球ぐらいで落ち込む必要はない。」

先日行われた野球の世界大会で、日本代表のダルビッシュ有選手が語っていた言葉です。「絶対に負けれない戦い」という意識が先行しがちな大会において、代表の中心選手からこうした言葉が発せられたことが、仲間をリラックスさせるものとして、少し話題になりました。好きな言葉の一つです。

もう一つ、好きな言葉があります。それは、「現場に自信を持ち込むな」というものです。

これは、以前テレビ番組で、ある左官職人の信念として紹介されていたものです。数々の有名なホテルやお店の装飾を手掛ける、世界的にも有名なその職人さんは、工事現場でどんな土壁を塗る際も「もしかしたらこの壁は、この後ひび割れるかもしれない」「この土に含まれている水の配合は間違っているかもしれない」と常に不安をおびえながら、数々の美しい壁を仕上げている、というものでした。

さて、ここでふと不思議に思ったのは「なぜ自分は、一見真逆にも見えるこれらの言葉の両方を好きなんだろうか」ということです。でも、よくよく思い返してみると、その理由が分かりました。

数年前、港区の中学校にお邪魔して、そこの中学生を相手に授業をするという機会がありました。しかも、その日は日本全国から中学校の国語の先生が授業を観に来られるということで、文字通り「東京代表」という立場でした。その授業自体はすでに行ったことがありますが、同じようにやるだけでは、会ったばかりの中学生には伝わりません。「ここをしっかりと説明するかわりに、ここは短く省略しよう」「このスライドは、ここをこうして見やすくしよう」などと、まさに「現場に自信を持ち込むな」という思いで、入念に何度も授業の進め方のチェックをしました。そして、その作業をひたすら積み重ねていくと、頭の中に、当日の授業のイメージがしっかりと出来上がってきました。すると、ある時を境に、「これ以上細かい部分にこだわり過ぎると、逆に心に余裕がなくなって良い授業ができなくなる」という気持ちになり、今度は努めて自分を落ち着かせようと思いました。まさに「戦争に行くわけじゃない（失敗しても、命まで取られるわけではない）」という、自分自身への声かけです。その結果、不安よりもワクワクした気持ちの方が強い心境で授業の前日を迎えることができ、当日も、70人以上の先生の前でしたが、一人一人の生徒の表情を見ながら、落ち着いて、計画していた通りの授業を行うことができました。

つまり、先の二つの好きな言葉は、どちらかが正しくてどちらかが間違っている、という類のものではなく、物事の準備において、入り口で必要な言葉と、出口で必要な言葉なのだろうと、今は思っています

### 三中生の活躍

(敬称略)



#### 陸上競技部

「第74回 東京都中学校地域別陸上競技大会」

男子東部共通 3000m

「第8位」

3年

遠藤 颯来

10分09秒13

#### 中体連(剣道)

「東京都中学校第九ブロック剣道春季研修大会」

個人戦

「第6位」

1年

細谷 虎之介

#### 女子バスケットボール部

「第25回 総務カップ」

女子

「第三位」



#### バドミントン部

「第九ブロック調布・狛江・府中地区バドミントン大会」

女子団体

「準優勝」

男子団体

「第三位」

